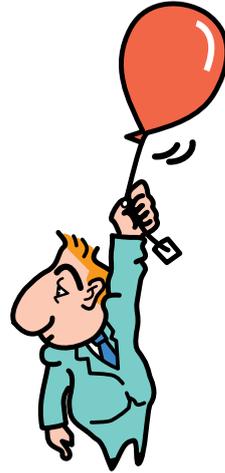


第四回 日本語スピーチ コンテスト

(テーマ)

- ① 日本って、どんな国
何に一番興味がある？
- ② 現実化する気候変動に
思うこと
- ③ コロナで、あなたの生活は
どう変わりましたか？



港ユネスコ協会

第四回

日本語スピーチコンテスト

日時 2020年12月13日(日)

午後1時30分～午後4時00分

会場 港区立男女平等参画センター

リーブラホール

主催 港ユネスコ協会

共催 港区教育委員会

協力 玉川大学ユネスコクラブ

目次

1. ご挨拶	港ユネスコ協会会長 永野 博	1
2. 第四回日本語スピーチコンテスト開催に寄せて	東京インターナショナルスクール理事長 坪谷郁子(審査委員長) 玉川大学教授 小林 亮(交流会企画実施)	2 4
3. スピーチ		
① 晨 黄 (中国)	「歴史から見た日本」	6
② Amina Miyegombo (モンゴル)	「現実化する気候変動に思うこと」	8
③ Robert Edward Shiffer (アメリカ)	「手でできたもの」	9
④ Anuujin Ulamnemekh (モンゴル)	「日本って どんな国？日本の何に興味がある？」	11
⑤ 明軒 孫 (中国)	「現実化する気候変動に思うこと」	13
⑥ Maria Lourdes Santos (フィリピン)	「皆さん、今こそ 目を覚まさない」	15
⑦ 萌萌 湯 (中国)	「日本で興味があること」	17
⑧ Maralgoo Uurtuya (モンゴル)	「コロナであなたの生活 どう 変わりましたか」	18
4. 会場見学者とスピーカーとの交流会		20
5. 審査委員		21
6. 審査基準		21
7. 審査結果		22
8. 表彰式		23
9. 閉会の辞	明治学院大学教授 渋谷 恵	24
10. 主催者側からのひとこと	港ユネスコ協会スピーチコンテスト委員会委員長 田川純子	25

1. ご挨拶

港ユネスコ協会会長
永野 博

港ユネスコ協会の主催する日本語スピーチコンテストはこの度、第4回を迎えることができました。異なる文化の理解を通じて戦争のない世界をつくり、平和を実現しようというユネスコ憲章の精神にも通じるこの企画は会を重ねるごとにスピーチの希望者も増えてきたところですが、今回はコロナ禍の中で、日本の大学や日本語学校に通う外国の方々が増減するという外的状況、国内的にも多くの人の集まる会をコロナ対策との関係でそもそも開催できるのかという懸念がありましたが、関係の方々の努力により素晴らしいコンテストを行うことができました。



ユネスコは二度と世界大戦を起こしてはならないという反省から終戦の年に設立された国際機関であり、世界での教育レベルの向上などを通じて平和を実現することを理念として掲げていますが、今、世界を見渡しますと、シリアやイエメンでの内戦、ミャンマーのクーデター、さらには米中関係の緊迫化など、平和と逆方向のニュースばかりが目に入るこの頃です。このような状況を変えることのできる要素としては、個々人の持つ異文化理解能力を育むという地道な努力を世界中で行う以外に方法はありません。平和の理念と現実には大きな落差がありますが、それでも多くの方が身近なところで草の根的にできることを実行に移すことがなければ平和は実現しないでしょう。コロナ禍でも今回の日本語スピーチコンテストを実現できたことは、携わられたすべての方々のひたむきな思いの結集によるものだと思います。

今回も多くの方々にご協力いただき感謝しております。その中でも、スピーチ終了後のスピーカーを交えた参加者との交流会を実行していただきました玉川大学の小林亮先生とユネスコクラブの皆さん、審査に携わっていただいた坪谷郁子委員長（東京インターナショナルスクール理事長）と委員の皆さま、閉会の辞を述べていただいた明治学院大学の渋谷恵先生、交流の部でアコーディオンを演奏していただき会場を盛り上げていただきました清水軍治会員には心よりお礼申し上げます。また共催をしていただきました港区教育委員会にも改めてお礼申し上げます。港ユネスコ協会といたしましては、このような意義を有する日本語スピーチコンテストは継続して実現していきたいと考えておりますので、皆様方には引き続きご支援を宜しくお願い申し上げます。

2. 第四回日本語スピーチコンテスト開催に寄せて

東京インターナショナルスクール理事長
坪谷 ニユエル 郁子（審査委員長）

去る20年12月13日（日）、田町駅近くの素晴らしい近代的な男女参画センター内リーブラホールにて、5カ国から来日されておられる8名のスピーカーの方々をむかえて、日本語スピーチコンテストが実施されました。今回は、コロナ禍ということもあり、実施の中止、延期、もしくはオンラインの開催でということもなんども考え、港ユネスコ協会も時間をかけて話し合いを重ねた結果、できる限りの対策を立てて実施しようという結論の上での開催でした。そしてその結果は、やはりやって良かった、何より大切なのはこうして人と繋がることだ、と誰もが感じた1日となりました。



スピーカーの皆さんのお話は誰の話もそれぞれの視点から「もっと平和に、よりより世界の創造のために何をしたら良いのか...」を基点とした愛に溢れる内容で、甲乙がつけ難かったと言えました。確かに生まれ育った国籍の違いはあるけれど、誰もがこの美しい地球に同時期に共に生き、分かち合う仲間であることがはっきりとわかりました。

私たちはこのコロナという課題に面して、社会的距離を取らなければいけない、家族にも会えないなどの寂しい思いをしておりますが、一方わかったこと、学んだことも多いと思います。コロナには国境も祝日もないということです。つまり様々な課題は国境を乗り越え、違いを乗り越え全ての人々が手を取り合ってこそ解決ができる、つまり競争より共生の社会を目指さなくていけないということなのではないでしょうか？



その学びのエッセンスが今回のこのコンテストには散らばっていたと誰もが感じました。

一生懸命ボランティア活動をしてくださった会員の皆様、そして全てをまとめ上げてくださった永野会長に感謝と敬意を示すと共に、ご参加くださり感動を与えてくださったスピ

一カーの皆様、応援に駆けつけてくれた皆様、お一人お一人のご協力と愛に支えられてこそこのコンテストが実施できました。わたしは帰宅なさる皆さんに顔が爽やかな美しさが見られ、なんだか胸がいっぱいになりました。

『競争から共生の社会価値観を変換しよう』これが今回のコンテストの結論なのではないでしょうか。また第5回のコンテストで皆様とお目にかかれる日を今から楽しみに致しております。

玉川大学教授（玉川大学ユネスコクラブ顧問）

小林 亮

人間としての出会いが平和をもたらす
－「第四回日本語スピーチコンテスト」に参加して－

港ユネスコ協会は2017年より毎年「日本語スピーチコンテスト」を開催し、国際交流に素晴らしい成果を上げてこられました。2020年12月13日に港区立男女平等参画センターで開催された「第4回日本語スピーチコンテスト」ではとりわけ参加者の熱気と高揚が強く感じられ、だれにとっても満足度の高い充実したイベントになったのではないかと思います。コロナ禍の困難な状況にもかかわらず、感染防止に万全の対策を取りながら、対面開催により出会いと交流のかけがえのない時間を実現して下さった港ユネスコ協会の創意とご努力に心からの拍手を送らせて頂きます。



今回は8名のスピーカーがそれぞれ力のこもった日本語スピーチを披露して下さいました。いずれも言語面、内容面ともに聴きごたえのある好スピーチでしたが、日本という異文化との出会いに加えて、コロナ禍での生活変容や気候変動への対応など、持続可能な社会づくりに向けたSDGs的な視点が明確に盛り込まれた話題提供が多かったのが印象的でした。

第二部では、玉川大学ユネスコクラブの学生たちがファシリテーターとなり、スピーカーと参加者の方々との交流会を4つのグループに分かれて実施させて頂きました。会場が広がったこともあり、4グループは互いに距離を置いて陣取りましたし、グループ内の交流も「密」を避けて行われましたが、それとは裏腹に心の交流は非常に親密だったと思います。スピーカーも参加者も国や民族の垣根を取り払い、一人の人間として自然体で体験や夢を語り合うことで、ほのぼのとした「共感」が生まれていました。世界では国際対立の尖鋭化が深刻な懸念を引き起こしていますが、国籍や民族を超えて一人の人間として相手と向かい合い対話することで根源的な共感や連帯感が育まれること、これこそがユネスコの提唱する「平和の文化」実現への着実な一歩であることにあらためて気づかされました。

今回も玉川大学ユネスコクラブの学生たちにはグループ交流のファシリテーターとして貴重な体験学習をする機会を与えて頂いたことに心から感謝申し上げます。また港区音楽連盟会長でおられる清水軍治さんには、すてきなアコーディオン演奏により

グループ交流に和やかで親愛的な雰囲気をもたらして下さったことに感謝いたします。
「平和の文化」構築への見事なモデル事例である本イベントを港ユネスコ協会がぜひ
今後も継続的に実施してゆかれることを強く希望しています。

3. スピーチ

①「歴史から見た日本」

晨 黄（中華人民共和国）

皆さんこんにちは！コウシンと申します。今年もユネスコのコンテストに参加させていただきました。この一年間、コロナで大変でしたね！皆さんは元気で過ごされてますでしょうか？私の場合、3月からずっと在宅勤務していて、普段は家でのんびりしていますが、せっかく日本に住んでるので、もっといろいろな人に日本の魅力を知ってもらおうべく、オンラインで日本に興味がある友人とかに日本語を教えています。そのおかげもあって、在宅の時間も退屈な思いをせずに、それなりに楽しんでいます。



私の趣味はいろいろありますが、特に日本史が好きです。日本史の中で一番好きな時代は平安時代と明治時代です。平安時代は仮名文字が発明され、美しい和歌や物語がたくさん作られ、日本文学の礎を築きました。そして明治時代の志士たちにより、日本の近代化が進んだのであります。

たまに思いました。なぜ資源が乏しく、極東にある小国に過ぎなかった日本がこれだけすごい国になったのか？今日はこの問題について、少し自分の考えをご共有できればと思います

まず、日本人は和の心、すごい包容力を持ってると思います。今からおよそ 150 年前、敵対していたはずの二つの藩が、坂本龍馬の斡旋で手を結び、それによって、幕府が倒され、明治維新が成功したのです。もし薩摩と長州がずっとせこいことで、戦っていたら、明治維新どころか、古い幕府制度で、日本は列強の植民地にされていたでしょう。もっと大きいビジョンのために、個人の利益を忘れることは、なんと素晴らしいでしょうか

そして二つ目、日本人は根性があり、ハングリー精神がすごいです。勝海舟は独学で蘭学を学び、のちに咸臨丸で太平洋を横断し、日本の航海術を発展させました。吉田松陰は西洋の技術に憧れ、知識や好奇心のために命をかけて黒船に密航しました。明治政府は不平等条約の撤廃や、先進国の技術を学ぶために、全財産の 2%をかけて、岩倉使節団を送り出しました。これらの人物のおかげで、日本は初めて世界の先進国と肩を並べられたと思います

最後に、日本人の国民性はまじめで、几帳面です。完璧主義者の国ですから、仕事に強い責任感があり、常に礼儀正しく、人に優しいという特徴があげられます。こういった国民性により、日本は世界に認められ、信頼される国となったのです。

以上、私が歴史を交えて日本人の特徴についてお話ししました。今の若者は歴史にあんまり興味がないのですが、私は歴史を知ればこそ、その国の大事な価値観がわかってくるので、過去を知ればこそ、未来に備えられると思います。これからもジャパンライフを楽しみながら、いっぱい学んでいきたいと思います。以上、ありがとうございました。

②「現実化する気候変動に思うこと」

MIYEGOMBO AMINA (モンゴル国)

現在、人間の不適切な行動のせいで地球が死んでいるも同然の状態です。残念ながら人々の多くがこの問題に向き合わずにいるため地球の状況が非常に悪くなりました。工場、ゴミ、交通手段が少しずつ周りの自然を破壊し動物を絶滅させています。これらは気候変動が原因と考えられます。

産業革命が始まって以来、人々はますます多くの化石燃料を燃やし、広大な土地を森林から農地に変えてきました。化石燃料を燃やすと温室効果ガスである二酸化炭素は非常に長い間大気中にとどまります。



地球に生まれた人間は地球からもらうことは多いですが、地球のためにすることは少ないです。この状況は非常事態だと国連環境計画 UNEP や世界自然保護基金 WWF などの組織が注意しても、アメリカ、スウェーデンなどの大きな国の政治家や国民は少しも行動しようと思いません。昨年から今年にかけてスウェーデンの17歳のグレタウンデリさんの話が世界中に広がりました。彼女はこう述べました「あなたは私の夢と私の子供時代を空の言葉で盗みました。人々は苦しんでいます。生態全体が崩壊しています。」など政治家たちに向けて話し始めました。また、彼女は気候変動が原因で人間と動物の生活にどんな悪影響が与えられているかも話しました。しかし、政治家や専門家は目を向けるどころか、子供は家に帰り、仕事は大人に任せなさいなどと答えました。

人間である私達は小さくても、少しずつ個人個人で出来ることがあるのではないのでしょうか。例えば、水の無駄を減らすことです。節水は二酸化炭素汚染も減らします。水を汲み上げ、加熱し、処理するのに多くのエネルギーを使うからです。ですから、シャワーの時間を短くし、歯を磨いている間、水を出しっぱなしにせず閉めるのです。また、より省エネの電球を購入します。LED 電球は従来の白熱灯よりも最大 80%のエネルギーを減少できます。その他には使っていない電子機器のプラグを抜くことです。

買い物の際、マイバッグを持ち歩き、レジ袋を使わないようにすることは、既に定着しつつあります。生活習慣を少し変えるだけで私達は多くの命を救い、地球を守ることができます。大きいことからではなく小さいことから始めようではありませんか。

③「手でできたもの」

Robert Edward Shiffer (アメリカ合衆国)

英語の教師だけですので、全世界にとって重要な問題を解決する計画を詳しく提供できません。ただし、社会はその問題が確実に理解して、解決するようになるか、全然心配していません。そして、なぜか心配していませんという理由をシェアしたいと思います。

理由をなるべくシェアするために、まず、個人的な話を取り上げたいと思います。私は窓の前に立って、眺めを長い間見るということはたくさんあります。

日本に来ていらい、私の目は開いて、たくさん素晴らしくて、見たことがなかった眺めを見ました。街並みを見たり、自然を見たり、絵を見たりしました。すなわち、東京の街並みや、福島 of 自然や、根津美術館にある絵などの眺めを見ました。

見ている間、「きれい」と「すごい」のような考えを思い出しましたが、なぜかいつもそうと考えるか、ある日考え込んでいました。人によって、その眺めを見るという理由は異なるに違いないですが、私の理由を取り上げたいと思います。



私の決着は、見ていたことの全ては人々の確実に練習してきた手でできたものです。「私も手を持っている者ですが、見ていたこと全然できません」と思ってきました。

ただし、「過去の人々と現在のここにいる人々との違いはあるか」という質問も思ってきました。実際にはないですね。

努力を通じて、自分の手で本当に素晴らしいものができます。どの問題でも超えるようになりました。200 年前に住んでいた人々にとって、現在の世界のすべては信じられないことです。毎日自分の生活を深く顧みたら、他人の努力と労作(ろうさく)を通じて事実になったものを数えません。

理解できない苦労は峠を越えて、人々は私の同じような手が訓練して、数えない素晴らしいことができるようになりました。手が動いて、動くとともに海も動きます。あまり説明らしくないですが、されまで説明できます。

自力にはその可能が住んでいます。自分の世界の中は小さいでも、自力の限定は非常に大きいです。だから、地球温暖化という大問題が解決できるか、心配していません。私は偉大なる人の仕上がりを見ながら、私の小さい世界で手をできるだけ練習して、自分の小さい世界に貢献してみます。私はそのような大問題を解決するようになる人ではありませんが、その人々は生きているにちがいないです。なお、その人々が手を練習している間、私は自分の手を練習して、私の小さい世界に貢献してみるつもりです。万人はその選択肢がありますの 心配しないようにして、手を練習しましょう。

④「日本って、どんな国？日本の何に興味がある？」

ULAMNEMEKH ANUUIJIN (モンゴル国)

今まで日本について多くの人の前で話をしたことがなかったので、今回は自信を持って自分の好きな国についての想いを話すことにしました。

私は小さい時から両親の日本人の友達と何度も会っていました。その時に私は日本語が出来なくて、もどかしい思いをしていたので、日本語を勉強したいと思うようになり、日本に留学しました。

日本で生活して、日本の習慣が好きになりました。特に、日本人のマナーの良さや愛想の良さがとても好きです。例えば、日本人は時間を大切にしたり、幼い子供から高齢者まで、「どこでも」、また「何を買うにしても」列に並んだりします。その上、お互いをリスペクトしたり、ちょっとしたお辞儀をしたり、他人に迷惑をかけないようにしたりするのも素晴らしいです。このようにとても親切で、礼儀正しいことに驚きました。国によって、文化や習慣が違うので、外国人からすれば日本の文化や習慣は不思議ですが、モンゴル人として日本人から学ぶことがたくさんあると思いました。



なぜ日本はそのようなマナーが身についたのでしょうか。日本の社会では忙しくて、道路を歩く時にも急いでいる人の姿が結構見られます。ですから、誰かと会うためには、自分の大切な時間を使うことになり、そこから、時間を守らない人は信用でき

ないという考え方が生まれて、時間に厳しいのではないかと感じました。また、お辞儀は、他の人への思いやりです。列に並ぶことは迷惑をかけないようにしているからではないかと気づきました。これらのことは、日本人がこれまで培ってきた自然な行動から出るおもてなしの一つだと考えました。

私自身もいろいろな体験をしました。例えば、私が信号を渡る時に落とし物をしたら、後ろからある男性が落とし物を拾ってくれたこと、電車の中でカバンが開いたままになっていたら、ある女性が注意してくれたこと、私が薬局へ行って会計をする時、レジ前にシャープペンシルを忘れた時にすぐに気づいて教えてくれたことなど日本人から暖かい気持ちを感じた経験が少なくありません。さらに、ある日私が自転車で転んで手にケガをして学校に来たら、先生たちが心配して、傷にいいバンドエイドを貼ってくれたことにも感動しました。そのことから日本人は自然に思いやりや気配りができるのだということを理解しました。確かに、多くの人々の中には色々な人がいます。もちろん、バイト先やその他のところで心が冷たい人にも会ったこともあります。

しかし、それより優しい人の方が大勢いるのでとても安心できます。私の国にも気遣いができる人が多いですが、日本の方がもっと優しい気持ちがこめられていると思います。私は日本にいられて嬉しいです。だから、私はこれから出会う人々がどんな人でも、誰にも対しても優しい気持ちで接していきたいと思っています。

⑤「現実化する気候変動に思うこと」

孫 明軒（中華人民共和国）

気候変動すなわち、地球上で起こる様々な大気現象は太陽から受け取ったエネルギーを源としています。そして、今、地球や私たちの生活に影響を及ぼしています。例えば、気温上昇の影響としては、北極などの氷が溶けることにより、海面が上昇しています。また、大型台風による豪雨被害や大洪水などもあります。



この気候変動の要因には、自然の要因と人為的な要因があります。自然の要因は人の力で変えられないものですが、人為的な要因は人間の活動に伴うものです。

近代において工業化が進むにしたがって、二酸化炭素を排出する石炭や石油のような化石燃料を燃やすようになりました。現在では、人間活動による二酸化炭素の排出量は地球が吸収できる量の二倍を超えています。二酸化炭素などの有害気体の増加による温暖化。そして、海水温度の上昇のため、サンゴが死亡するなど、生態系に影響を及ぼしています。

日本では、2017年の九州北部豪雨災害で広範囲にわたる斜面崩壊や土石流の被害がありました。この災害は、死者40名、行方不明者は2名でした。世界では、自然災害の被害者が6177万人もあり、死者は1万人ぐらいいなります。人の命は自然の力の前では、とても壊れやすいと思います。

気候変動による自然災害をできるだけ減らすために、国や私たち自身ができることをしなければなりません。これから、国や会社や個人の立場でできることを例にあげたいと思います。

国としてすべきこと

まず、政府より、「地球温暖化対策計画」という政策を出すことです。そして、気候変動に対する活動を呼びかけることです。

企業としてすべきこと

職場のエアコンの設定温度を夏は28度、冬は20度に設定することです。使わない電気製品は電源を切ることです。

そして個人としてすべきこと

電球をLEDに替え、電気自動車を選ぶなど省エネ能力が高い商品を選ぶことです。また、買い物のレジ袋は使わないようにすることも大切です。

自分の力でできるだけのことをやろうという意識を持つことが何より必要なのではないのでしょうか。少しずつの努力が大きな結果に結びつくと私は思います。

⑥「皆さん、『今こそ 目を覚まさない！』」

Maria Lourdes Santos (フィリピン共和国)

皆さん、こんにちは 私は サントス マリア ルーデスと申します。フィリピンのマニラから来ました。仕事はエステシャンと英語の教師をしております。



きょうは、皆さん、今こそ目を覚まさない というお話をします。

私が初めて来日した時、バスの運転手さんがお互いにすれ違う時、手を上げて挨拶を交わしていたのです。でも今はその光景は見ることは出来ません。何故でしょうか？

日本人に心の余裕がなくなったのだと私は思います。

今年の二月ごろから新型コロナウイルス、失業、海外との交流制限、などのニュースがありました。色々、大変だと思います。

話は変わりますが、今、介護の世界では人手不足です。ですからアジアの人達、ヴェトナム、タイ、フィリピンから若い人達が介護の仕事で来てくれています。日本からは仕事を外国からは人手を提供してもらって協力し合っています。でも介護で世話をしてくれている親切な人達に日本人が余り、いい対応をしていないようです。例えば介

護の仕事の内容を報告する時、日本語が書けないのに知らん顔している。折角、優しい気持ちで助けてくれる人達に日本人の冷たい対応に失望して、やめてしまう人も多
いと聞いています。本当に勿体ない話ですね。皆さんはどう思いますか？

最後に私からのお願いです。皆さんは自分の事、自分の国の事に、もっともっと関心
を持って これからの人生をどうしたいのか、現実を見極めて目を覚ましてください。
そして しっかりと行動して頂きたいと思います。

私が何故こんな事をお話したのかと言いますと皆さんには、これからは楽しく、より良
い社会を築いて頂きたいと願っているからです。

きょうは、皆さん、今こそ目を覚まさない。と言うお話しをしました。

お話しを聞いて下さってありがとうございました。私はサントス マリア ルーデスで
す。

⑦「日本で興味があること」

湯 萌萌（中華人民共和国）

日本の代表的な料理は何ですかと聞かれた時に、なんと答えますか。寿司？天ぷら？焼き鳥ですか？やはり、寿司と答える人が多いかもしれませんですね。でも、実際に日本に来て感じたのは、カレーも日本の国民食の一つだということです。日本のカレーは、明治維新の時期にヨーロッパから伝わったものがカレーの元祖で、最初は海軍の食事として取り入れられ、そのあと日本で長い年月をかけて、独自の味に進化してきました。大正時代に入り、玉ねぎ、にんじん、じゃがいもを使った日本式カレーが誕生します。野菜やお肉などを大きく切って、カレーに入れるのが当たり前になりました。



カレーの起源はインドですが、このスタイルは日本独自のものです。インドにはないものです。日本のカレーは甘口なので、日本式カレーと呼ばれているのは、間違いではないと思います。

日本はわずか150年しかないカレーの歴史の中で、日本式カレーの工業化製造ラインを急速に発展させ、今や世界二位のカレー消費国になり、毎年93億食分が消費されています。また日本で生産されたカレー粉やカレールーは世界の食品市場を席巻し、売上世界一を達成しただけでなく、インドカレーよりも人気があるとされています。日本のカレーチェーン店の代名詞、カレーハウスココ壱番屋は海外でも大人気です。中国にももちろん進出しています。ココ壱番屋は進出から13年で約6倍にまで、拡大しています。日本式カレーライス of 知名度は確実に上がってきています。

今、カレーライスは日本の国民食と言っても過言ではありません。街には、カレーの専門店やチェーン店がたくさんあります。カレーが食べたいけど、今から作るのは面倒くさいと思うなら、常温で長期保存できるレトルトカレーもスーパーやコンビニで簡単に手に入ります。家庭で簡単に作れるような定番の味から、スパイスの効いた本格的な味まで、豊富な種類がスーパーなどの店頭並び、手軽にカレーを楽しむことができます。カレーライス以外にも、カレー味のお菓子とか、カレーパンや、カレーラーメンなど、多種多様な食品もそろっています。

食文化は、その土地の気や風土、習慣だどに根付いている独自のものです。インドで生まれ、日本で独自の発展をとげたカレーライスは、様々な時代背景を乗り越え、互いに影響を及ぼしあいながら、新たな食文化として生まれました。私も日本に滞在している間に、様々な日本式のカレーを堪能したいと思っています。

⑧「コロナで、あなたの生活どう変わりましたか？」

UURTUYA MARALGOO (モンゴル国)

今日、私は皆さんにコロナについて発表したいと思います。コロナの影響で私の生活に多くの変化が生まれました。毎日マスクを着用したり、授業が zoom で行われたり、家にいる時間が長くなったので、電気料金が高くなったり、19年生きてきた中でしたことのない生活を続けています。その中で一番変わったのは、人間としてやるべき事に対する考え方が大きく変わったということです。私はコロナが世界中に広がり始めた時から悪意がない多くの人々がメンタル的にも体力的にも傷ついている事に気づきました。



その中で今日、皆さんに話したいのはメンタル的なコロナです。メンタル的なコロナというと皆さんの頭に何が浮かびますか？

私はメンタル的なコロナという言葉で差別を表したいです。今日まで私は差別するのは個人の自由の一つだと思っていました。しかし、新型コロナウイルスが出た時から世界中の様々なところで差別に関する理解しようにもできないケースが現れています。歴史的に見て、伝染病やパンデミックは、偏見や差別を誘発しがちでした。かつては、エボラや MERS のような病気がそうであり、現在では新型コロナウイルスが該当

します。新型コロナウイルスの流行後、アメリカでは、アジア系と思われる人々に対する偏見、嫌がらせ、いじめを報道するニュースが増えています。

例えば、今年の9月27日にニューヨークで日本人の有名なピアニストが8人のヨーロッパ人に非難され、現在ピアノを弾けない状態になっているそうです。また、日本でも中国人が入れない店があったり、中国人留学生が部屋を探していたら中国人だからと言って貸せないと断られたりするなどのケースは少なくはありません。

このような話を聞いてモンゴル人である私の心が痛みました。なぜ人間は人間を差別しているのだろうか？これには意味があるのでしょうか？この質問に完璧な答えはありません。コロナは中国人だけに感染しているわけではありません。コロナで世界中の何人もの命が奪われています。始まった場所は中国でしたが中国人が作り出したのではないのです。だから、皆さん一回自分たちに聞いてみてください。もし、コロナがあなたの国で始まり、広がっていたとしたら、そして、それが理由で多くの人々があなたの娘や息子を差別し、メンタル的にも痛みを感じさせていたら、あなたはどう思いますか？同じ人間なのに自分が選んだわけではない運命のせいで毎日悩み続けることは厳しいことだと思いませんか？

新型コロナウイルスはもちろん日本でもアメリカでも始まる可能性はありました。そのため、コロナは今、世界中の皆さんにメッセージを送っています。それは、人間を守る唯一の方法は人間だということです。差別したり、snsで相手の心を殺したりするのは意味がありません。こんなことしても一人の命も救うことは出来ません。そのため、世界中で生きている私達は、みんなで力を合わせて「コロナ」と戦うのです。人を差別するというはこの世界にあってはいけないものです。人間はウイルスではありません！人の命だけではなく、人の心まで奪おうとしているコロナとみんなで戦いましょう。

4. 会場見学者とスピーカーとの交流会

玉川大学小林亮教授のご指導のもと、玉川大学ユネスコクラブの学生の協力により、参加者が4つのグループに分かれ、それぞれスピーカーを囲みながら「留学生の苦労話や、



日本や日本語への思いなど」について自由なお話をしました。



5. 審査委員

審査委員長	坪谷 郁子	東京インターナショナルスクール理事長
審査委員	横井 彩	国連大学サステナビリティ高等研究所事務総括
審査委員	鈴木 健太郎	港区教育委員会
審査委員	玉置 修二	新橋赤レンガ発展会役員
審査委員	永野 博	港ユネスコ協会会長

6. コンテストの審査基準

自分の思いや考えが伝わってくるか

未来に向かって頑張る姿勢が伝わってくるか

日本人や日本文化に対する新鮮な見方、考え方があるか

異文化に対する理解の有無

感動できる内容

全体的印象として、態度、発音、コミュニケーション

7. 審査結果

坪谷 郁子審査委員長より、以下の通り受賞者の発表が行われました。

最優秀賞	Maralgoo Uurtuya
港ユネスコ協会会長賞	萌萌 湯
審査員賞	晨 黄
港区長賞	Amina Miyegombo
会場特別賞	Maralgoo Uurtuya
優秀賞	明軒 孫
優秀賞	Anuujin Ulanmekh
優秀賞	Maria Lourdes Santos
優秀賞	Robert Edward Shiffer

8. 表彰式

「最優秀賞」の受賞者には 坪谷郁子審査委員長より、賞状、カップ、記念品(輪島塗夫婦箸)が 授与されました。



9. 閉会の辞

明治学院大学教授
渋谷 恵

コロナ禍のなか、港ユネスコ協会による第4回日本語スピーチ・コンテストが開催されたことをまず心からうれしく思います。出場者の皆さんにとって、この1年は大きな変化と試練の年だったのではないのでしょうか。言語や文化の違いがあるなか、感染症に関わる様々な社会変化に対応していかなければならないこと。つながりのある国との行き来が難しくなったこと。そうした状況にありながら、コンテストに応募し自分の意見を伝えようとしている姿に大きな力をいただきました。経験を通して紡ぎだされた言葉の一つひとつが、参加者全員の心に響いた時間だったと思います。



出場者によるスピーチ、その後の全体交流、一緒に音楽を楽しむ時間を通して、同じ地域、そして同じ地球に生きる仲間としての「つながり」の意味を感じました。違いを超えて、互いの知恵と思いを分かち合うことが、ユネスコが祈念する「人の心の中に平和のとりでを築くこと」の基礎になると確信しました。本日の会、そしてこれまでの蓄積とこれからの活動の展開が、私たちみんなの平和、心と身体と社会の良き在り方 (well-being) につながることを願っています。

10. 主催側よりのひとこと

港ユネスコ協会スピーチコンテスト委員会委員長
田川純子



日本語スピーチコンテストも 第四回となりました。今回は 今までと異なり、大ホールでの開催、そして、会場見学者からの投票である「会場特別賞」を設けるなど、会場に来ていただきました全員の方が関わり、このコンテストを盛り上げていただきました。私共の「相互理解を深めコミュニケーションの分野で国際平和の促進」にすこしでも近づくべく、これからも回を重ねていく所存です。末筆ながら、ご支援いただきました、港区教育委員会をはじめとする皆様のご協力に感謝申し上げます。



港ユネスコ協会

住所 〒105-0004

東京都港区新橋 3-16-3

港区立生涯学習センター 3F

(JR 新橋駅烏森口徒歩 2 分)



URL <https://minato-unesco.jp/>

電話 03-3434-2300

受付時間 火曜日～金曜日(祝祭日を除く)午前 10 時～午後 5 時

16-3, Shimbashi 3-chome, Minato-ku, Tokyo 105-0004, Japan

(Minato-city Lifelong Learning Center)

Tel (03) 3434-2300

Open 10:00 to 17:00, Tuesday through Friday (closed on national holidays)



NINATO TOKYO